

## 第3次総合計画第4期基本計画第1回総合計画審議会議事録

日 時：平成29年10月20日（金） 15:00 ～ 17:00

場 所：東金市役所3階第1委員会室

出席者：委員…19名

市長、企画政策部長、企画課長、商工観光課長、企画課副課長、企画係長、企画課主査補、企画課主事補

議題：（1）地方創生関連交付金事業の効果検証について

（2）「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の平成28年度における効果検証について

（3）その他

### 1 開会

（司会 企画課長）

### 2 市長あいさつ

〔市長〕 日頃から市政に対しまして温かいご支援とご協力をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が策定され、いわゆる地方創生がスタートしたことに伴い、本市においても、国の各種交付金を活用して様々な事業を推進しているところである。

この交付金は、それぞれの市町村が事業設計を自由に行うことを可能にするとともに、明確な政策目標の下、客観的な指標の設定やPDCA等の効果検証体制の整備を求めるといった新しいタイプの交付金であることから、総合計画審議会の皆様には、その中間的なチェックおよび効果検証を行う組織としての役割をお願いしているところである。

「部署と部署との境界」や「市町村間の境界」、「官と民との境界」を越え、広い視点で取り組んでいくためにも、本日の審議会において、幅広い分野からお集まりいただいた委員の皆様から、貴重なご意見・ご提案をいただければと思う。

### 3 委嘱状交付

（企画課長より、委嘱状を机の上に交付させていただいた旨を説明。）

### 4 委員紹介

（企画政策部長より、委員を紹介。）

### 5 事務局紹介

（企画政策部長より、当審議会事務局を紹介。）

## 6 会長及び副会長の選任

(事務局一任との意見により、企画課長より、高橋委員を会長に、小川委員を副会長に選任。)

《市長、退席》

## 7 報告

[企画課長] 議題の進行については、東金市総合計画審議会条例第5条第1項の規定により会長に議長をお願いしたい。

(会長…了解)

[会長] まず議題(1)について、事務局より説明を求める。その説明に基づいて、個々の事業の見直すべき点、次年度以降の地方創生のすすめ方等について、意見を伺いたい。

### ○(1) 地方創生関連交付金事業の効果検証について

(企画係長…議題(1)では、地方創生に係る国の交付金を活用して実施した事業について、その効果検証として、意見を頂戴する。始めに、カラー刷りの【補足説明資料】より、改めて地方創生関係交付金の概要を説明する。

人口減少社会を迎えるにあたり、東京への人口の一極集中を是正すべく、平成26年に「まちひとしごと創生法」が制定された。これが、いわゆる「地方創生」である。この地方創生を推進するにあたり、国の各種交付金が用意されている。

資料の一番左緑色部分の「基礎交付」については、各団体の人口などに応じて交付されたものであり、東金市では約5,000万円の交付を受けた。その横から、緑色の「上乗せ交付」、オレンジ色の「地方創生加速化交付金」、一番右の黄色部分「地方創生推進交付金」、これらについては、国に対して各団体がビジョンを描いた上で、申請・採択を経て、交付を受けるといったものである。

なお、「加速化交付金」については、かかった事業費の100%が国から交付されるというものである。一方、黄色部分の地方創生推進交付金については、かかった事業費の半分が交付され、残りの半分は市の財源を使い、実施するものというものである。これらの交付金は、今までの補助金に比べ自由度が高い分、使い終わった都度、内部だけの評価で済ませるのではなく、外部からのご意見をいただいたうえで、評価をすることが求められている。

今回は、昨年度実施した、オレンジ色の「地方創生加速化交付金」、黄色の「地方創生推進交付金」を活用して実施した、「九十九里地域観光復活化事業」と「インターネットメディア局整備事業」の2つの事業について、ご意見をいただきたい。

### 「九十九里地域観光復活化事業」

【資料1-1】をご覧ください。まず始めに、オレンジ色「加速化交付金」を活用して実施した事業についてである。この事業の総事業費については、約440万円となっており、その全額に国の交付金を当てている。

概要としては、近隣の九十九里町と連携し、九十九里浜という抜群の知名度を有する九十九里町と都心部へのアクセスに優れた東金市を1つのエリアと捉え、それぞれの強みを活かし、一体となって地域のPRをしていこうというものである。具体的な内容としては、まず始めに、お互いが持つ観光スポットの整備として、九十九里町はビーチタワーをリニューアルし、東金市は八鶴湖に栈橋を建設した。なお、建設した栈橋につきましては、2枚目に写真を掲載した。後ほどご覧ください。そ

のうえで、情報誌「るるぶ」を作成して、地域のPRを実施した。

さらに細かい使い道としては、資料記載の通りである。また、「るるぶ」については、全部で6万部を作成し、そのうちの半分の3万部を発行元であるJTBに依頼し、首都圏の各店舗に配架、及び都内で開催されたイベント等で配付をしていただいた。残りの3万部は、九十九里町1万部、東金市2万部に分け、それぞれ配付を行っている。この「るるぶ」への反響は大変大きなものがあり、現在東金市の残部は800部ほどとなっている。また、日本語版だけではなく、英語版・中国語版も各8,000部作成し、成田空港等で配付を行っている。

なお、この事業を実施するにあたり、数値目標である重要業績評価指数(KPI)として、「観光入込客数」を設定している。事業開始前の約71万人に対し、100万人という目標を立てて実施したところ、事業終了時で約135万となった。この「観光入込客」という数値は、県の観光入込調査で公表されている数値であり、資料下段にもある「みきの湯」が、県の定義の変更により、新たに対象として含めることができるようになったという要因もある一方、多くの施設・イベント等においても、前年より数値が増加したという結果となっている。これを受け、資料下段の私どもの内部評価としては、この事業の効果は大きなものであったと考えている。

#### 「インターネットメディア局整備事業」

【資料1-2】をご覧ください。この事業は先ほどの【補足説明資料】のうち、黄色部分「地方創生推進交付金」を活用して実施した事業である。平成30年までの3年間で、総事業費約2500万円をかけて行う事業であり、このうちの半分に国の交付金を当てている。

概要としては、民間会社と協力し、市内にインターネット番組の配信を行う拠点を整備したうえで、様々な分野の方々と番組を持ち寄り、ともに市の魅力を発信していこうとするものである。昨年12月の採択に伴い、平成28年度は4ヶ月だけであるが、事業に取り掛かったところである。

具体的な使い道は資料記載の通りである。主な内容としては、メディア局の開設に先駆けて、月1回番組を作成し、YouTubeという動画投稿サイトにて先行配信を行っている。その撮影、編集及びメインの司会者であるプロのアナウンサーへの委託費用が主な費用である。

この事業を始めるにあたって、数値目標としてKPIを3つ設定した。1つ目が「東金駅西口商店街年間売上高」、2つ目が「広告・情報発信に対して満足と感じる人の割合」、3つ目が「東金駅西口周辺1日当たり平均歩行者通行量」である。これについては、この事業を通じて、たとえば、八鶴湖に来ていただいた方に、併せて西口商店街を歩いていただいて、歴史を感じていただくなど、市内を回遊していただくことをねらいとしているため、こういった指標を設定しているものである。

結果としては、2番目の指標である「満足度」につきましては上昇が見られたものの、1番目と3番目の「売上高」と「歩行者数」が目標に達しなかったという結果になっている。ここで1点、数値について補足をする。3番目の「歩行者通行量」については、基準時918人とあるが、これは事業実施前2日間の東金駅西口の交差点付近の歩行者の平均値であるが、2日のうち1日が東金高校の卒業式と重なってしまったという事情があり、平常時よりも高い数値になっている。実績を計測した両日とも、平常時だったため、数値が大きく減少した結果となった。これらを受け、資料下段の内部評価としては、「動画」という新たな情報発信に取り組んだことについては一定の理解をいただけたものの、発信する内容についてはまた改善の余地があると考えている。

簡単ではございますが、以上2つの事業について、委員の皆様からのご意見等をいただきたい。）

[会長] 議題(1)に関して、質問を受ける。

(意見・質問)

[会長] 【資料1-1】「九十九里地域観光復活化事業」について、「観光入込客数」を業績の指標にしているが、基準の平成27年時と基準が変わってしまっている。「みきの湯」の15万人が含まれているということだが、もし平成27年の「みきの湯」の数値が分かれば、基準値を新しい基準に合わせて変えておくべきだと思う。こういった補足については、資料のどこかに備考等で記してほしい。

[企画係長] 平成27年の「みきの湯」の数値については、現在把握していない。次回こういった形で公表することがありましたら、一覧書きにして対比できるような形としたい。

[会長] 水増ししたように見えてしまうので、気をつけたほうがよいと思う。

次に、【資料1-2】のKPIの3番目「東金駅西口周辺1日当たり平均歩行者通行量」について、東金高校の生徒数は700人ほどで、行きかえりの往復で1,400人はいるはずである。「1日」というと、必ずその数値が入ってくるはずだが、どのように計測したのか。

[企画係長] この計測については、東金駅西口の交差点、いわゆる駅前の道と旧126号が交わる地点で計測をしたもので、実際計測をすると、高校生はその地点を通らず一本手前の道を通っており、この数値にあまり反映されないという結果となった。また、指標のタイトルは「1日当たり」となっているのだが、実際に計測を行ったのは9時から18時までの間であり、朝の通学時間に実際に通った生徒がいても反映されていないといった状態である。

[会長] 八鶴湖の観光という点を見るのであれば、八鶴湖では朝早くに歩く方や夜に夜景を楽しむ方もいらっしゃると思う。その数値が通学によって左右されるというのはよろしくないのではないか。駅の出口や八鶴湖の入口で計測をするなど、測定する時間や地点について、設定を見直した方がよいと思う。幸いまだインターネットメディア局は開局していない状態なので、その使用前後を比べるのであれば、新たに指標を設定していただきたい。

[委員] 「観光入込客数」のカウントについて、資料ではゴルフ場が「新千葉カントリークラブ」だけだが、他にもあると思う。なぜ「新千葉カントリークラブ」だけをカウントしているのか。

また、「みのりの郷」については、どのように数値をとっているのか。

[商工観光課長] 「観光入込客数」について、資料では5つの施設・イベントが載っているが、ここに挙げたものは主なものであり、県の報告には、それ以外にもかなり多くの施設がある。他のゴルフ場としては、「東千葉カントリークラブ」がある。また、「雄蛇ヶ池」、「エストレークラブ」、「ぶどう園」、「東金青年の家」等の施設の利用者、またイベントとしては、「桜まつり」、「YASSAフェスティバル」、「産業祭」等の来場者を、入込客数としてカウントしている。

「みのりの郷東金」については、レジの通過者数ではなく、来場者数である。この来場者数については、来場者数が2、3人の場合でもレジ通過者数は1人となることから、レジ通過者数に一定の係数を掛け、算出したものとなっている。

[委員] 季美の森にもゴルフ場があり、一部東金市にかかっている。この施設のカウントはされないのか。また、「新千葉カントリークラブ」は、平成28年は11万とあるが、これは3つのゴルフ施設を含めた合算が11万ということなのか。

[商工観光課長] 「季美の森ゴルフ場」は、本市の「観光入込客数」にはカウントしておらず、大網白里市でカウントがされている。また、11万という数字については、「新千葉カントリークラブ」だけの利用者数であり、「東千葉カントリークラブ」につきましては、別途7万9,000人という報告がされている。

[委員] 「東金アリーナ」や「文化会館」が指標に入っていないのはなぜか。

[商工観光課長] 「観光入込客数」を県に報告するにあたり、どういった施設が対象になるかという

定義がある。その中で、「東金アリーナ」と「文化会館」は対象外となっている。

[会長] 県の基準があるということだが、効果検証がきちんとできるような指標を設定していただきたい。

[委員] 同じく「観光入込客数」についてだが、平成27年が71万で、平成28年の実績が138万と、約2倍近く増えている。これは劇的な変化だが、「るるぶ」の効果ということでもいいのか。

[企画課長] 「るるぶ」だけが要因ではないと考える。「道の駅 みのりの郷東金」が約30万人増加していること。また今までカウントされていなかった「みきの湯」により15万人追加。この2つが大きな要因と考えている。しかし、「るるぶ」を発行したことによって、「道の駅」も宣伝されているので、ある程度「るるぶ」の効果もあるのではと考えている。

[委員] 九十九里町と連携しているということだが、九十九里浜に夏場海水浴に来られた方が、みのりの郷等、東金に寄られているのかどうかといった資料はないのか。ただ東金を通り過ぎていのであれば、九十九里町と提携を結んでも意味が無い。そういった連携も説明していただきたい。

[企画係長] 資料の作りが悪く申し訳ない。地方創生加速化交付金は九十九里町とともに申請をし、1つには、今おっしゃられた九十九里という知名度を活かし、一緒になって人を呼び込んでいこうとするねらいがあるものである。しかし、それぞれに国の交付金が入っている関係上、九十九里町は九十九里町に来た方をカウントし、目標を達成ができたかについて効果検証を行うこととなっている。ご指摘いただいたような海水浴でいらっしゃった方については、九十九里町でカウントをし、同じく目標と対比してどうであったかを、最後国に報告することになっている。

[委員] 「観光施設整備」と「観光誘致イベント」の結果として、平成27年度に比べ「桜まつり」が3万人増えている。YASSAフェスティバルの花火を増発したとのことだが、何発くらい増やしたのか。また、今後の計画でどのように花火の増発を行い、3万人を維持していくのか。

こういった事業は継続的にやっていかなければ、すぐ数値は戻ってしまう。また立派な栈橋もできたが、蓮の花が咲かなければ意味がない。せっかく補助金をもらっているのだから、もっと効果があるような施設整備に使っていただきたい。

[商工観光課長] 【資料1-1】の「観光誘致イベント」の内訳としては、まず「東金市観光協会事業補助金」が5,943,000円であり、交付金を活用したことにより、平成28年度は通常よりも280万円ほど増額した。主にプロジェクションマッピングに関する機材及びソフトの購入に充てたものである。今後、市内で行われるイベントにプロジェクションマッピングを追加することにより、イベントの付加価値を高めていくことをねらいとしている。

「YASSAフェスティバル推進協議会交付金」については、交付金300万円を活用している。それにより、通常より3、40万ほど増額し、平成28年度は花火を100発から150発ほど打ち上げている。YASSAフェスティバル推進協議会では、例年、市からの補助金の他に企業からの助成金等を活用し事業を行っている。この交付金を活用できない来年度以降の対策としては、今後とも多くの花火を打ち上げられるように、企業等に助成を求めるなどの努力をしていきたいと考えている。

また、資料上段の「観光施設整備事業」では、八鶴湖に栈橋を設置した。この栈橋設置の大きな目的としてハスの花の鑑賞ということがあるため、ご指摘いただきました通り、平成28年度はハスの花が咲かず、鑑賞ができなかったという状況である。花が咲かなかった原因としては、明確ではなく、水生植物による食害やハスの芽が密集したために、病気にかかってしまったといった説がある。いずれにしても、管理が不行き届きであった点については、お詫び申し上げるとともに、来年度につきましてはまた蓮池が再開できるよう、今後の措置を考えていきたいと考えている。

[委員] 花火100発で何分の花火が打ちあがっているのか。10分や5分の花火を上げても効果が

ない。寄付金をもっと集めるなどして、東金にいったら30分、1時間と花火が上がったと話題になるようにしてほしい。元気のある東金をつくっていただきたい。

[会長] 議題(1)について、各交付金事業の効果検証ということだが、KPIの目標を上回ったから非常に効果的であったという総括で終わるのではなく、今回の効果検証を教訓として、こういったところにお金をかければ効果があるのかといった、ノウハウを開発することが大切だと思う。

先ほど九十九里町と回遊はどうなっているのかという意見をあつたが、そういったこともしっかり検証していただきたい。

#### ○(2) 「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の平成28年度における効果検証について

(企画係長…議題(2)では、「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の平成28年度の効果検証をお願いする。まず総合戦略とは何かについて簡単に説明する。資料として、総合戦略の冊子とA3の概要版をお手元に配布した。

少子化などにより、日本の人口は減少傾向にあり、当市も例外ではない。国の研究機関によると、2060年における当市の人口は約34,000人まで減少するとされる。さらに、高齢化により、高齢者の人口が現役世代を上回り、今までと同じような行政サービス、社会保障制度が維持できなくなる。東金市としては、2060年において人口約5万人を維持すること、さらにはバランスのよい世代構成を維持することを目標として、平成27年度から平成31年度までの5年間で力を入れてやるべきことをまとめたものが、この総合戦略である。

目次を見ていただきたい。この戦略では、人口の維持に向け、「げんきづくり」、「みらいづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」、「きづなづくり」の5つの点からアプローチを行っており、それぞれ達成するための具体的な施策をまとめている。また、言葉だけの目標や施策だけでは、進捗状況や達成度が図りにくいいため、細かな数字で見える目標を設定し、それらの数値がどう変化していくかを追いかけていくことで、この戦略がどこまで進んでいるのかを図ろうとするものとなっている。その数値を抜粋して作成したものが、【資料2】である。この数値の推移などから、今後改善すべき点、または普段お気づきになられている点などについて、ご意見を頂戴したい。

#### (1) げんきづくり for VITALIZATION

「げんきづくり」は、魅力あるまちをPRすることにより、人を呼び込もうという視点である。その進捗状況を把握するため、P.1に記載した数値目標を設定している。これらの数値を受けて、P.2に私どもの考えを記載した。「観光入込客数の増加」が大幅な増加を示していることから、議題(1)で説明した事業を中心に、一定の成果を上げたのではないかと考えている。一方で、施策ごとの数値目標では、昨年度に引き続き「若者を中心とした活気のある街だと思える市民割合」や「観光PRが盛んだと感じる市民割合」、「移住定住ホームページへのアクセス件数」などが依然として低い数値を示していることから、それらに対する対策が必要であると認識している。しかし、今年度は「大学との連携によるイベント」や「新たな移住定住ホームページ(TOGANE Life)」を作成したところであり、来年度の報告の際には、数値目標の改善が期待できるのではないかと考えているところである。なお、この分野で実施した主な施策については、下段記載の通りである。

#### (2) みらいづくり for NEXT GENERATION

「みらいづくり」は、子育てしやすい環境を整えることで、少子高齢化に歯止めをかけようという視点である。P.3に記載した数値目標を設定している。これらの数値を受けて、P.4に私どもの考

えを記載した。目立った数値の変化はなかったが、「防犯カメラの設置等による防犯インフラの整備」や「子ども医療費扶助事業」を確実に実施できたことや東千葉メディカルセンター内に産婦人科がスタートしたことなどについては、一歩前進できたのではないかと考えている。

その一方で、「婚活支援事業」を実施できなかったことは、平成29年度以降の課題であり、早急に実施していきたいと考えている。なお、この分野で実施した主な施策は、下段ご覧のとおりである。

### (3) まちづくり for COMFORTABLE CITY

「まちづくり」は、住みやすいまちをつくり、人が安心して集い、暮らせるようにしようという視点である。P. 5～6に記載した数値目標を設定している。これらの数値の推移を受けて、新たに住宅を取得した方を対象とした補助制度により、移住定住に向けての受け皿作りはできたと考えている。また、九十九里町との連携により、観光情報誌「るるぶ」を作ったことで、効果的な情報発信はできたと考えている。その一方で、移住定住のホームページへのアクセス数が依然として伸び悩んでいることから、対策を講じることが急務であると認識している。この分野で実施した主な施策については、下段ご覧のとおりである。

### (4) しごとづくり for JOB CREATION

「しごとづくり」は、地域に雇用を創出し、働きやすい環境を整えることで、本市に居を構えていただくという視点である。P. 7に記載の数値目標を設定している。これらの数値の推移を受けて、私どもの考えをP. 8上段に記載した。この視点の1つの目玉であるワークライフバランスについては、以前から取り組んできたところであり、その続きとして国の交付金を活用した事業を実施する予定であったが、交付金が不採択となり実施が困難となっている。そのために、数値目標も達成が困難ではないかと考えている。しかしながら、ワークライフバランスの整備は喫緊の課題であり、啓発をメインとする取組に変更するなど、数値目標を達成できるように、事業の見直しを行っていく。

また、昨年度に引き続き、看護師養成学資金貸付により、東千葉メディカルセンターに一定数の看護師を確保できたことは、成果ではないかと考えている。平成28年度からは、奨学金の枠を広げ、なるべく早い段階で十分な看護師を確保したいと考えている。なお、この分野で実施した主な施策については、下段記載のとおりである。

### (5) きずなづくり for FRIENDSHIP

「きずなづくり」は、周辺地域と連携し、地域全体の利便性を高め、人を呼び込もうという視点である。P. 9記載の数値目標を設定している。これらの数値を受けて、九十九里町との連携により作成した「るるぶ」については大きな効果があったと考えている。その一方で、同じく九十九里町と連携により立ち上げた「移住定住ホームページ」のアクセス数が目標値を大きく下回っていることから、「地域間連携が進んでいると感じる市民割合」は微増にとどまってしまったのではないかと考えている。「移住定住ホームページ」についてアクセス数を上手く確保できるような策を講じていきたい。なお、この分野で実施した主な施策については、下段記載のとおりである。

以上、短時間で概要のみの説明ではあるが、委員の皆様から、ご意見を頂戴したい。

[会長] 議題(2)に関して、順番にご意見を頂きたい。

[委員] 近年、どの自治体においても同様の施策が取り組まれている中で、東金市としてどの部分に大

きなウエイトを置いて、魅力あるまちづくりをしていくのかということが非常に大きなテーマではないかと考える。大学も周辺の自治体と連携をしているが、多くが「大学との連携」や「若者の定着」である。他の自治体と同じように進めているのでは、先んじている千葉市や東京都に人が流出してしまう。市として思い切った取組を行わないと、効果が出ないまま、人口減少が進んでしまうのではないかと危惧している。

[委員] 資料を拝見し、色々な取組をされているということが良く分かった。しかし、これらの取組が市民や市外の方に伝わっていないのではないかと感じた。情報のPRは難しいかと思うが、メディアを使ったりする場合は、県や全国で「初めての取組」といったものであれば、メディアから飛びついてくる。そういったことであれば、お金をかけず、うまく情報発信することもできるのではないか。

[委員] 私は山武市の蓮沼に住んでいるが、山武市は東金と比べても人口も減少が激しく、色々な面で苦労している。そのような中で、どの自治体も人口減少を食い止めたいところだと思うが、個人的には、こういった事業にはより多くのお金をかけて、大胆な発想の事業をしていただきたいと思っている。またそういったことを考えていかないと、田舎に人が来て定住するというのは難しくなるのではないかと思う。逆に、銀行家という立場としては、そういった資金をどうやって集めて、投入していくのかという仕組みづくりを考えていきたいと感じている。

[委員] 「観光入込客数」が増えているという資料があったが、「道の駅 みのりの郷東金」では、道の駅に来た方が次にどこに行けばよいか、この辺で体験をできる場所はないか、という質問をよくされる。道の駅に来た方が、次に東金市内または九十九里町関係の観光地に行けるような、逆に、観光地に来た方が、東金のお土産を買えるところはないかというところで、道の駅にお客様が流れる、そういった横のつながりがもっとできたらとよいのではないか。

[委員] 「るるぶ」について、絶えず情報は新しいものに更新していつてもらいたい。また、ホームページについてだが、一度見たが面白くなかった。今は面白くないものは見ない時代である。ネット検索についても、今は多くの方がGoogleではなくTwitter検索をしている。SNSを使った対策が全く盛り込まれていないので、そういったところも併せて対策をしていただきたい。

[委員] 観光について、ハスの花を見る栈橋を作ったということだが、そこに来るための駐車場整備がまだできていない。東金市に電車やバスで来られる方は少ない。まず来ていただくためには、まず観光バスや乗用車のための駐車場を用意することが重要だと思う。るるぶにも、観光を目当てに来て下さる方が分かるように、そういった情報を載せて頂きたい。

また、今年はハスの花が咲かなかったということだが、桜の花も昔より貧弱になっている気がする。花火と併せて、外部の方にPRをしてほしい。また、花火の費用の問題だが、新潟県のある地域では、学校の卒業生からの寄付や七五三や成人の記念で花火を上げる例もある。商店街だけで負担をするのではなく、そういった工夫も考えていただきたい。

[委員] 私は青少年相談員としての活動で、YASSAフェスティバルや桜まつりのパトロール等をしているが、花火が上がった後などには、「もう終わってしまったのか」といった雰囲気をよく感じているところである。また、人の流れについては、圏央道が繋がったことから、そういった新しいデータをとるというのもよいのではないか。

[委員] 私は45年東金にいますが、この栈橋やハスの花自体も今回初めて知った。やはりPRが本当に少ないと感じた。また、他の委員の方がおっしゃるように、花火が少ない。先ほどの地方創生推進交付金は市を盛り上げるための交付金だと思うので、花火等に上手く使っていただいて、情報を発信できれば、もっと人を集めることができるのではないか。

[委員] 「みらいづくり」の「子育て世代(20～49歳)の転入者数」や「学童保育の利用学童数」、



特に「不妊治療に対する助成事業の利用件数」については、数値が大幅に減少しているが、これは何故なのか。私自身が東金市で小学生と中学生の2人の子供を育てているなかで、非常に満足しており、どんどん子育て世代には東金市に来てほしいと思っているので、これらの数字をみると、どうしてなのか疑問に思ってしまう。東金でどんどん子育てしようという情報発信もしたいが、そういった機会もない。

[委員] 自治会を代表して、各地区に防犯カメラが付き、防犯面に力を入れていただいていることに、非常に感謝している。一方で、地域もどんどん高齢化している。YouTubeやホームページのアクセスなど色々と開発されているようだが、地域の中ではインターネットを見られない人が多くなってきている。そういった人へのPR方法工夫していただきたい。

また、駐車場がないということは私も感じているところである。開発や観光事業を進めるにあたり、今後の対応について、検討していただきたい。

「きづなづくり」については、現在市との協働事業が非常に活発的になっており、高齢者のひきこもりが減り、外に出てきているのが現状である。今後もぜひ進めていただきたい。また、地域には77つの地区がある。区長に話をいただければ、地域と色々話をし、活性化を図るような体制をとることができるので、地域も参加できるよう配慮をお願いしたい。

[委員] 東金市全体として、街中に人のにぎわいがあまりないという印象を強く感じる。にぎわいがあるのは「みのりの郷」や大型スーパーがある地域で、街中の東金駅西口側はシャッター通りである。市の懸案事項である一方、ここまで沈んでしまった街中を盛り上げるのは大変だと感じている

また、若者が東金に定着しない原因として、市内には城西国際大学がある一方で、卒業後すぐに就職できる場所が市内にないことが挙げられる。これからは経済的な基盤というものを固めないと人口は増えないのではないか。

[委員] 現在、商工会議所では、東金の商店街の再生、福祉の充実、まちづくり、これらを3本柱として活動しているところである。

また、私は現在若い世代をどうやって育てていくかという取組を進めているので紹介する。

私は東金高校の委員をやっているが、東金市では若い世代が非常に少ない。東金高校の定時制の生徒は現在40人いるが、その中の半分は不登校である。こうした生徒にとってのゴールは、卒業することではなく、将来職業をもち、家族をもち、そして生活できるようになることである。そのためには、普通科と同じカリキュラムだけでは不十分であると考え、現在商工会議所の若手の経営者と生徒とで、もう一度いろんな考えについて、一緒になって話し合うといった活動を始めているところである。今後は、先生たちと話し合い、なにか職業を身に付けるような、子ども達が望むようなものを教えていきたいと考えている。

一方で、東金高校でも生徒数が減っており、受験者数が減ってきていることが、1つの悩みの種である。先日城西国際大学の学長先生ともお話をし、たとえば東金市には高校がたくさんあるので、その生徒たちが大学とはどういうところかわかるような、ガイダンスの時間を大学でつくっていただきたいというお願いをして、やりましょうというお返事をいただいた。

これから子どもたちをどうやって育てていくのかということはとても大事なことで、これをやらなければ、東金市は活力のある市にはならないと思う。そういった面で、みなさまにもお願いをすることが多々あると思います。その際にはご協力をお願いしたい。

[委員] 他の委員からも意見が出ておりますが、子育て世代にとって、いかに魅力のある市にするかということが、教育面全体にとって大切なことだと思う。特に義務教育に関しては、同じ税金を払って、東金市と近隣の市とでは内容が全然違うということにならないようにしていただきたい。他のところ

よりも、より魅力のある教育をしていかないと、人はどんどん出ていく一方になってしまう。

また、現在教育委員会では、不登校の改善やスポーツ・生涯学習関係について、様々な取組をしている。特に、生涯学習や文化学習の取組については、教育委員会の中でよい企画をしていると思っ  
ても、PR不足で外に伝わっていないということが多々ある。ヨコの連携をしっかりととり、東金市のPRになるように頑張っていきたいと思っている。

[委員] ハスの花が咲かなかったことについて、私は農業委員として、自身も作物を作っているの  
で、こういう年もあるとはいうのはわかる。一方で、先ほど他の委員さんからも指摘があったとおり、や  
はり立派な栈橋を作っても、ハスが咲かなかったら意味がない。そういった意味では、他に観光施設  
があれば、仮にハスの花がだめでもそちらに行こうということになる。他にはないような施設を整備  
することでも、観光客は増えるのではないかと思う。

[委員] 東金市というところは、人材も相当豊富で、基本的なインフラや鉄道ルートも相当に集積され  
ており、他から見たら、はるかに素晴らしい都市になれる可能性がある。今回の議題だと、人口ビジ  
ョンと総合戦略に基づいて数値化し、基準値があり、目標値があり、これに近づけていこうとしてい  
る。その努力はいいと思うが、実際問題、市役所の職員や財源も限られており、ある意味では低いと  
ころはそのままでよいのではないかと思う。やはり、選択をして、お金を集中する事業を決めてい  
かないといけないのではないか。いろいろな意見があっても、結局は、財源・人がないとできない。  
そういう意味では、この中の数値にあまり縛られない方がいいのではないかと思う。

[委員] 「観光入込客数」について、他の委員から花火についての意見が多く出ているが、たとえ  
九十九里と連携し、元旦に1,000万円くらいかけて花火を上げれば、10万人でもすぐに人を呼  
び込むことができる。一方で、これはお金がかかる話であり、清掃管理等人手が必要な大変な事業だ  
とも思う。委員の皆さんからいただいた意見の中から絞ったうえで、どれをやっていくかという決定  
も、議会としては必要だと思っている。

最後に、少子高齢化で、退職者が増え、働き手が減っているなかで、「婚活事業」がとても重要だと  
感じている。商工会議者や農協に共催いただき、TVでやっているような「お嫁さん募集」のような  
事業を東金でもやってみたらどうか。全国放送ということになればPRに最適だと思う。そういった方  
法を考えていただければ、まだまだ東金も先行き伸びていくのではないかと思う。

[委員] 思い切った事業が東金市には全くない。たとえば、所得300万以上の家庭の保育料について、  
東金市は大網白里市に比べ、月額1万7,000円も高い。若い世代はどんどん流出する。転入者や  
子育て世代の若い人たちに東金市に住んでもらうための、思い切った施策をやっていかなければ、東  
金市は先がないと思う。東千葉メディカルセンターの赤字もあり、東金市がなくなってしまうかも  
しれないといった状況である。審議会を開催した、事業評価を実施した、ということではなく、国から  
の交付金等を活用し、東金市の財源を投入しなくてよい状況をつくり、若い人が住みやすいよう  
な思い切った施策ができるような東金市にしていきたい。

[委員] 東金市は2060年には3万4,000人にまで人口は落ち込んでしまうということで、これ  
を食い止めるための計画が、「総合戦略」であり、2060年の出生率は2.33を目指している。平  
成28年度の出生率は1.28であり、毎年出生率を上げていくことができなければ、この計画は実  
現できないということになる。細かい事業の話の前に、このことがまず前提にあるように思う。

また、事業の中には、「お金のかかる事業」と「知恵のかかる事業」があると思う。この仕訳をしつ  
かりして、今後は知恵を使った事業について、もう少し考えを出し合い、求めていくことが必要だ  
と思う。たとえば、「若い世代の転出」については、特に若い女性の転出を防ぎ、むしろ、呼び込む方  
法をとらなければいけない。他の委員からもあったが、「婚活支援事業」は全く実施していない。これは

市ではなく、民間にやってもらってもいいのではないかと思う。また、大学と連携したイベントは、お金のかからない「知恵」の部分だと思う。そういった部分から取り組んでいただきたい。

最後に質問として、【資料2】の「みらいづくり」の中の、「家庭児童相談室の相談件数」が伸びているということについて、これは虐待やいじめ、不登校が増加しているという意味なのか。この数値の増加の理由を教えてください。

[企画係長] 「家庭児童相談室の相談件数」の増加については、特段の要因は見当たらないといった状況である。この数値が増えることが、良いことなのかということについては、一概には言えないところではある。数値を追うだけではなく、状況について原課と連携しながら、要因についてもおさえていきたい。

[会長] 過去2年間全く着手していない「大学等との連携した新たなイベント」と「婚活支援事業」については、早急に実施していただきたい。一度やると市民に約束されたことなので。

また、指標の作り方についてだが、この会議は、PDCAサイクルに基づき、最初に立てた計画と実施した内容から、必要があれば変更について検討して、改善を行っていく場でもある。そういった意味では、数値目標についても設定が間違っていれば変更することが可能だということだと思う。

たとえば、先ほどの「家庭児童相談室の相談件数」については、基準値124件に対し、目標値140件なので、多い方がよいという設定だったのだろうが、多いということはそれだけ相談案件が多い、心配事が多いということにもなる。これについては多少を比べるようなものではないのではないか。

また、「学童保育の利用学童数」についても、少子化で子どもの数自体が減っているのが減っていくのは明らかである。これについては、たとえば利用率などの数値を比べるべきで、そもそも学童保育の利用というのは、ニーズを満たしているかということの方が重要なのではないかと感じている。

「しごとづくり」において数値目標として掲げている、「市内事業所数の増加」や「市内事業所事業者数の増加」については、総合戦略自体が「九十九里地域広域連携」を謳っているのだから、近隣自治体で働いている東金市民を考慮し、市内の事業所だけでなく、近隣自治体の事業所についてもカウントしていただきたい。総合戦略でねらっている広域連携と市内の事業所だけというこの指標は、整合性が薄い気がする。また、「ワークライフバランスに関するコンサルト数」という指標も、コンサルトの人数ではなく、実際にコンサル業務を行った実績を比べるなどにすると意義がでるのでは。

これらの指標の中には、指標として不適切なものもあるようなので、一度立ち止まって、精査をして、来年度以降に活かしていただきたい。

最後に、他の委員からも「選択と集中」が大切だという意見が出ていたが、他市がやっていることで、同等にやる必要があるものはやるべきであるし、他市が手掛けていない部分を集中的に取り組むのことも考えられる。他の委員から意見をいただいたことを反映していただきたい。

[委員] 「大学等との連携した新たなイベントの開催数」について、「0」ということだが、私の団体の開催するイベント、特に動植物の観察会では、毎回城西国際大学学生に参加していただいている。この指標のカウントの仕方はどうなっているのか。

また、近々成田空港の第3ターミナルが開設するが、それに伴い従業員が3万5,000人ほど不足するといわれている。この地域にとっては、1兆円の広域事業である。このことは、どこか念頭に入れておいていただきたい。

[会長] 委員の皆様から色々なご意見等をいただきました。また追加的なご意見等ございましたら、別紙「意見提案用紙」にて事務局までお願いしたい。これにより、議題については了承されたわけだが、

一方で今後留意してほしい点についても意見が挙がったと思う。それらを酌んで、今年度また次年度にあたっていただきたい。

### ○(3) その他

[企画課長] 今までご意見いただいたなかで、補足できるものについて説明をさせていただく。

まず、ご意見の多かったPR不足ということについてだが、今まで、市では、市のHPと広報を主体としてPRをしていたが、近年は動画の作成や新たなHPの立上げを行っている。今年度は「東京カメラガールズ」という団体とコラボし、女性の視点をいれて東金をPRしようといった取組を実施した結果、「TOGANE Life」というHPが立ち上がっている。一度検索していただきたい。

また、若者が定着するためには、働く場や交通の便が重要という意見が挙がったが、丘山台の工業団地の整備がほぼ終了しており、新たな施策が展開できないかと、今年度事業で委託をかけ、調査を進めているところである。「婚活支援事業」については、実績値0と記載してあるが、今年度、企画課と東金アリーナとが連携し、初の試みとして1つ事業を予定しているところである。

数値目標については、見直しを行うべきところ多々あるといったご指摘をいただいたので、今後内部で知恵を絞って、改善を図っていきたいと考えている。

議事の終了

### ◆課長あいさつ

[企画課長] 委員の皆様には、長い間ご審議いただいた。これをもって、東金市総合計画審議会を閉会させていただく。次回の開催につきましては、平成29年度数値が確定してからとしたいので、平成30年度に入ってから開催を予定している。

8 閉会

以上